



# 東京オトナ大学

T O K Y O O T O N A U N I V E R S I T Y

2012.5.19 (sat) 13:00~  
場所: 東京駅サピアタワーにて

[www.otonadaigaku.jp/](http://www.otonadaigaku.jp/)

東京駅サピアタワー・知性と出会う

東京ステーションシティ サピアタワーにて、知的情報発見イベント「東京オトナ大学」を開催します。「JAPAN FORWARD ~これからの日本へ~」をテーマに行う基調講演や、サピアタワーの入居大学・企業による講義に、無料で参加いただけます。基調講演、各大学・企業の講義への参加は、WEBサイトにて事前申し込みを受け付けております。

受講者受付中(参加無料)

## 基調講演



竹内 薫

15:00~16:00

サイエンス作家

定員350名

環境と科学の共存を目指して  
— それでも我々は科学に賭けるしかない —

科学と環境の問題は、3・11以後、それまでとは全く違った意味を持つようになった。今、科学が地震や津波、原発事故に対してできること、そして、科学が環境と共存しながら発展するにはどうすればいいのか…。

## 実施概要

- 会場: 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー5階・6階「東京ステーションコンファレンス」
- 参加: 無料(どなたでもご参加いただけます)※WEBでの事前申し込みが必要です
- 応募期間: 5月17日(木)まで
- 主催: 株式会社ジェイアール東日本ビルディング
- 協力: 東日本旅客鉄道株式会社
- お問い合わせ: 「東京オトナ大学 事務局」平日11:00~18:00(土日祝休み) 03-6406-0762
- URL: <http://www.otonadaigaku.jp/>

詳しくは、

13:00~14:30

## 東北大学

会場A

経済学研究科教授・地域イノベーション研究センター長：藤本雅彦

## 東日本大震災からの地域産業復興に向けた東北大学の取り組み

東日本大震災の悲惨な現実を直視したとき、大学に関わるすべての人が、「想定外」を専門家の責任解除とすることなく、その責務としてこの不条理を克服する答えを示すべく挑戦しなければなりません。大震災の状況に対する献身的な貢献活動と同時に、地域社会の復旧、復興、そして人類社会の持続的発展に向けて、悲しみを希望の光に変える活動に東北大学は総力を挙げて取り組んでおります。その概要と具体の取組を紹介します。

## 関西大学

会場B

名誉教授・京都大学名誉教授：竹内 洋

## テレビ的大衆社会：ひとつの現代日本社会論

現代日本社会を大衆社会とすることに誰しも異存はないだろう。しかし、テレビ普及以前の大衆社会とテレビ普及後の大衆社会では、構造が大きく変わっている。前者は「単純な」大衆社会、後者は「ウルトラ」(再帰的)大衆社会である。後者を「テレビ」的大衆社会と呼び、テレビ文化人の特質などから、その正体を考える。

## 甲南大学

会場C

副学長：西村順二

## 地域資源を活用した街づくり

— 神戸スイーツによる新たな街のデザイン —

地方分権、地域ブランド、ご当地グルメ、そして地産地消など、今や様々な分野で「地域」や「地域発想」が重要なキーワードとなってきている。地域には様々な資源(人材、観光名所、文化・歴史、地域商品など)が存在するが、それらは相対的に小さな世界でしか活用されてこなかった。この講座では、神戸のスイーツを題材に、地域資源を活用した街の活性化事例を紹介し、新たな街のデザインを考える契機とした。

## 関西学院大学

会場D

理工学部人間システム工学学科教授：長田典子

## 音と色のハーモニー

— 科学・技術・アートを融合した感性価値の創出 —

QOL(生活の質)を高めるとか、人の感性に訴える、といった言い方を耳にします。生活の「モノ」の面が整ってきた今、生活の「質」の面、例えば工業製品の使い易さ、映像メディアの面白さ、照明空間の快適さといった、人の気持ちや感じ方を大切にしようという価値感が広がっています。この講座では、人の感性を脳科学、工学、芸術等さまざまな角度から捉えて、新たな社会的価値を創出する取り組みについて紹介します。

## 石油資源開発株式会社

会場E

技術本部技術企画部長：河合展夫

## JAPANなう

— 日本に与えられた課題に対する石油開発技術者の回答 —

私たちの住む日本は東日本大震災により様々な課題を与えられた。50年以上の間、国内外でのエネルギー資源開発を進めてきた我々石油開発技術者に示された課題に対し、基礎技術の紹介から今後のエネルギー資源開発の方向性を示し、科学技術の日本として明るい希望が見える未来を切り開く道として、その回答のひとつとして紹介します。

16:30~18:00

## 東京大学

会場A

先端科学技術研究センター教授：玉井克哉

## 情報技術の拓く「すばらしい新世界」

— 「プライバシーのない社会」に耐えられますか —

グーグルが「プライバシー・ポリシー」を変更したことが報じられています。一部で大きな問題になっていますが、いったい何が問題なのか、いまの世界を見ていても、よくわかりません。米国でも欧州でも、議論が活発になっていますが、情報通信技術の行き着く先をよく見て、日本も決断せねばなりません。この講義では、主として法律の面から、考えるための材料を提供したいと思います。

## 産業能率大学

会場B

経営学部 教授：松尾尚

## 「わが社は、お客様のために提案営業を推進する！」に隠されたリスク

— 提案営業はなぜ失敗するのか? —

「提案営業はわが社の業績に貢献する」。提案営業が売り手一買手のwin-winの関係につながると信じる経営者が口にする言葉である。しかし、実際の営業現場では提案営業が業績向上に結びつかないケースが多い。その失敗メカニズムと顧客とのリレーションシップのあるべき姿を、電子部品メーカーで提案営業に関わった講師が解説する。

## 流通科学大学

会場C

総合政策学部 教授：崔 相鐵(チェ サンチョル)

## 韓国ロッセ・ショッピングのグローバル・シフト：日韓ハイブリッド企業の大躍進の近因と遠因

韓国財界屈指のロッセ・グループの屋台骨であり、最大手の小売集団であるロッセ・ショッピングが、大胆かつスピーディにグローバル化を推し進めている。長らく保守的経営を堅持してきた同社が、なぜ今グローバル企業への途を急ぐのか。小売市場の飽和という環境要因もあるだろうが、カリスマ創業者の密かな意志とそれを引き継ぐ2世経営者の変革的リーダーシップこそが注目に値する。第2のサムスン電子を夢見る日韓ハイブリッド企業の挑戦は、グローバル化に消極的な日本企業を大いに刺激するに違いない。

## 立命館大学

会場D

理工学部建築都市デザイン学科 准教授：宗本晋作

## 建築の活動が社会にできること

建築と社会は密接な関係にある。環境にも配慮すべきである。これからの建物はどのようにあるべきなのか。東北支援をはじめとする社会との関わりを例に、建築の設計が社会にどのように役立てられるか、建築が社会に貢献できる可能性を、都市的な視点(マクロ)、ユーザーからの視点(ミクロ)から述べてみたいと思います。

## 株式会社ジェイアール東日本企画

会場E

交通媒体本部 媒体開発部 部長：山本 孝

## 交通広告分野におけるデジタルサイネージの現状と可能性

最近、すっかり普及してきた「デジタルサイネージ」について、定義や特長を詳述するとともに、電車内・駅構内における展開事例を中心にご紹介し、サイネージをとりまく様々な課題と近未来の広告媒体の可能性について考察したいと思います。また近年、急速に拡大しつつあるサイネージ間のネットワークやコンテンツのトレンドについても紹介します。